

8月の予定

2019年7月11日
野毛山幼稚園



主 題	ゆったりと
ね が い	<p>神さまの望まれる平和を共に考え、祈る。</p> <p>家族や保育者とゆったりとした夏の生活を過ごす。 経験したことや、感じたこと、考えたことをことばや様々な方法で表現する。</p> <p>自然に親しんだり、様々な人と出会ったり、楽しい経験をする。</p>

聖句

あなたがたの救われたのは恵みによるのです

エフェソの信徒への手紙2章5節

今月の聖書の言葉が書かれているエフェソの信徒への手紙は使徒パウロが獄中で書いた手紙です。パウロは自分の生きざまを通し、「神さまの恵みのもとにある人間が神さまによって幸福を与えられている」ということを伝えていきます。この世にはたくさんの悪しきならわし(習慣、常識、世間体、この世的な価値観等)があり、それに合わせて生きる時、生きていても罪の中にいると言えるでしょう。そのような私たちを憐れみ、この上なく愛してくださいました。その愛によって神さまは救ってくださいました。私たちが救われたのは神さまからの一方的な恵みによるのです。神さまの恵みと愛に応えるものとなりたいたいと思います。

予 定

日	曜	予 定	備 考
28	水	緑陰保育	午前中保育
29	木	緑陰保育	午前中保育
30	金	のげやまフェスティバル	

八月や、六日、九日、十五日
はちがつや、むいか、このか、じゅうごにち
広島原爆の日 長崎原爆の日 終戦記念日

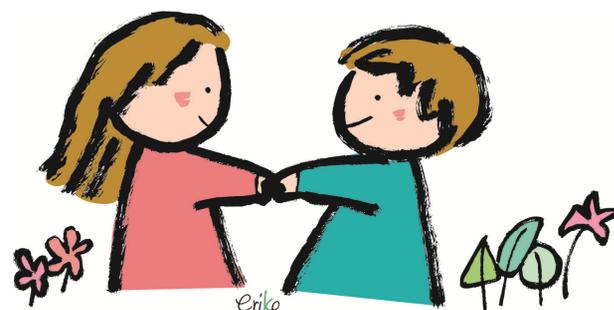
この川柳にもあるように、8月は日本にとって「平和」について考えなくてはならない時です。信じられないような事件や事故が毎日のように起こり、大切な命が奪われています。真の平和はいつ実現するのでしょうか。私たちは本当に小さなものですが、あきらめず、希望をもって、私たちのできることをしていきましょう。戦後74年。戦争を体験した方も少なくなり、戦争の悲惨さを知らない世代が多くなってきています。再び戦争をする国になってしまうのではないかと心配もあります。おとなも子どもも戦争の悲惨さにふれる機会を大切にしたいと思います。

◇「平和」ってなんだろう…
それぞれの年齢に応じて考え、具体的にどうしたらよいか、身近なことで考える機会を持ちましょう。
仲良くする お友だちのことを考える
嫌な気持ちになることを言ったり、ゆったりしない…等

◇神さまからいただいた「いのち」を大切に思う
◇平和に安心して暮らせないお友だちがいることを知る。

シャローム…イスラエルの国の挨拶のことばです。ヘブライ語で「平和」を意味しますが、単に争いのないことではなく、力と生命に溢れた状態でもあります。「シャローム」は「平和」という意味の他、「平安」「平穩」などの意味もあります。わたしたちの社会全体が、イエスさまの注いでくださる愛と平安の中に生きるものとなりたいたいと思います。

シャローム!



年 長 (さくら組)	年 中 (たんぼぼ組)	年 少 (アネモネ組)
<p>自分でできるお手伝いを続ける。 お祈りの生活をする。 食前のお祈り 一日の終わりの祈り… 公共のマナーを守って過ごす。 さまざまな経験を通して感性豊かな生活をおくる。 緑陰保育に参加し友だちとの再会を喜びあう。 園生活のリズムを取り戻す。</p>	<p>規則正しい生活をおくる。 自分でできるお手伝いを続ける。 お祈りの生活をする。 食前のお祈り 一日の終わりの祈り… 公共のマナーを守って過ごす。 さまざまな経験を通して感性豊かな生活をおくる。 緑陰保育に参加し友だちとの再会を喜びあう。 園生活のリズムを取り戻す。</p>	<p>規則正しい生活をおくる。 できることは自分でするようにする。 食事の前にお祈りをする。 公共でのマナーを知って守る。 はじめてのこともやってみる。 緑陰保育に参加し友だちとの再会を喜びあう。 園生活のリズムを取り戻す。</p>

読んでみよう 考えてみよう

子どもたちと「平和」を考え、分かち合うために、絵本を読んでみませんか？

戦争に関する本はたくさん出ていますが、今、わたしたちの中にある問題を考えていくのはどうしたらよいのでしょうか。平和の本は選ぶのがとても難しいです。まず、お母さんが読んで感じて、難しい言葉は直して読んだり話したりしてください。(貸出希望の場合は、事務所まで)



パウロは、死んでいた私たちが生かされたことを話しましたが、神の恵みについて、さらに詳しく話していきます。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

救いは、私たちから出たものではなく、また、私たちの行ないによるものではない、と言っています。2章の1節は、「あなたがたは」から始まりましたね。私たちが引き起こしたのは、死と神の怒りでありました。しかし、4節は、「神は」から始まりました。ですから、救いは神から出たものであり、私たちから出たものではありません。

ただパウロは、ここで、「信仰によって」という言葉を差し入れています。私たちは何もしなくても、自動的に救われるわけではありません。神の救いを受け入れるという行為が必要です。信じることによって、初めて神の恵みがその人のうちに働きます。

そしてパウロは、「だれも誇ることもないためです。」と言っています。もし救いが神から出たものであり、私たちから出たものでなければ、その栄誉は神に至ります。私たちの行ないによって救われるのであれば、私たちは誇ることはできますが、神が行なっただけですから、神に栄光が帰されます。自分の行ないに拠り頼みたくなるのが私たちの性質ですが、それは自分を誇りたいという動機があるからです。しかし神の恵みは、私たちの誇りをすべて取り除きます。

私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。

救われた私たちは「神の作品」とであると、パウロは言っています。この作品とは、ギリシア語で「ポエマ」であり、その言葉から英語の「ポエム」つまり「詩」が派生しました。つまり、私たちは神の芸術品なのです。私たちは、他の聖書箇所でも、「陶器」とあるとも言われています。神が陶器師であり私たちが陶器です。神の願われるままに、神の喜びとして、私たちは形造られていきます。私たちはただ、主の御手の中に生き、主に委ねて、主がなされることに身を任せることが必要です。

そして、パウロは、この作品は、「良い行ない」によって作られることを話しています。私たちが救われたのは行ないによるのではないのですが、救われた私たちは良い行ないをするようになります。しかし、ここで注意していただきたいことは、「神が、その良い行ないをあらかじめ備えておられる。」ということです。良い行ないでさえも、私たちからではなく神から出たものなのです。